

花まるたより

2024
112

Hanamaru
Monthly
Newsletter



2024年12月

はるかかなた

「1・2・3・4・たくさん」という数え方しかない原始的な部族がアフリカにいます。というような話を聞いたことがあります。その示すところは、5以上になると明確なイメージがつかないほど「たくさん」に感じるということ。先進国ではあり得ないよね、と半分笑い話として聞きました。

しかし、何事かについて「はるかかなた」遠すぎて、大きすぎて、感知できない」と感じる領域が、人間誰にしもあるものです。そして、その領域は個人としても人類全体としても、経験によって変わっていくものです。

たとえば、私にとって、幼稚園時代は、橋を渡って30分も歩いて行かねばならない小学校は、はるかかなたでした。しかし毎日登校するようになると、「自分のテリトリー」として把握できていた感覚になりました。そして、県庁所在地の熊本市は電車で2時間半もかかるはるかかなたに感じられました。高校で熊本市に下宿するようになると、県全体が「自分のいる県」として心理的に近いものになりました。この「つかんでいる場所」という感覚は、東京、日本全体、世界各国へと拡大していきました。

歳を取るということは、「はるかかなた」

が少しずつ「つかんでいる場所」に変わっていくこと、と言えるかもしれません。

上を見上げてみてもそうです。少年時代、草むらに横たわり雲よりはるか上空を飛び飛行機を見ながら、「あんなところから下を見たらどんな感覚なんだろう」と想像しました。しかし飛行機に乗る体験を重ねると「まあ、こんな感じだよな」と理解できていく気になります。ちょっと想像力を働かせれば、月から地球を見る感覚すらも、いまやわかるような気がしてきます。あの屋根の上から見たら、あのタワーの上から見たら、あの山の上から見たら、あの飛行機から見たら、宇宙船から見たら……。文明の発達や科学技術の進化もあいまって、どんどん拡張し「はるかかなた」が遠のいていきます。

それは心理的なことすべてに当てはまるでしょう。たとえば本を書いた人ならば誰でもあることですが、「あなたは本を書けばよい」と言われても「いや、私なんか絶対凡人だし。本を書ける人なんて、私なんかとかけ離れたすごい人ですよ」と感じるものです。私もそうでした。ところが一冊書いて販売されると、「あれ、できるんだ」という気持ちに変わります。

10月に開催した第21回シャイニングハー

ツパーティーを見に来られた方は、不登校の子100名以上が集まり、あんなに笑顔で全身を動かしながら、踊りも合わせて歌い上げるパンチある姿に驚いたでしょう。なかでもご両親にとっては、わが子が仲間輪のなかに入って嬉しそうに明るい表情で、あんな表現ができる日が来ることを、つい数か月前まで想像もできなかったかもしれませぬ。イメージがかすんでしまつて「無理」な感じだったことが、「できること」「当たり前」に変わることが、さまざまな場面で見られますよ。

さて、この一年で印象的だったシーンがあったので、紹介します。重度の重複障がいのある息子のイルカセラピーのために家族で沖縄へ旅行したときのことです。そこでは、障がいのある人がいる家族のために、医師や看護師数名がイルカとの触れ合いやプール・海遊びを補助してくれました。

そこに、今年初参加された78歳と76歳のご夫婦がいました。車椅子のご主人は脳梗塞で3回も倒れたせいで、9年前から右半身不随。言葉もまったく出なかつたところから言語聴覚士さんとの出会いがあり、片言では話せるようになったのでした。旅の間中、「この態勢で、苦しくない?」「おな

新刊情報

『ビジュアルで読み解く地政学』

狩野崇 監修
(三オックス)

花まるグループの進学塾部門であるスクールFCで社会科学や国語などを担当する狩野が監修した、世界情勢の背景がおもしろいほどわかる1冊。「地政学」は現在の世界の国々の関係を読み解くカギといえます。

各国の領土や国際社会における立ち位置が、経済、外交、軍事にもたらす影響を、地図を交えながら視覚的に解説。

本書を読めば、ロシアのウクライナ侵襲、イスラエルとパレスチナの争い、アメリカと中国の覇権争いをはじめ、現在の世界情勢の背景とそこに至るまでの過程を理解することができるでしょう。



『こどもを野に放て!』

AI時代に生きる知性の育て方』

養老孟司/中村桂子/池澤夏樹/春山慶彦 著
(集英社)



本書は大人気の登山アプリを開発した春山慶彦氏と、自然の中で遊ぶことの価値を信じる3賢人との対話をまとめた1冊。私自身、長年子どもたちに野外体験を提供してきた「自由な外遊び」にこそ、感性、知力、体力などすべての面で最強の育成の場があると信じている一人。幼児や小学生を育てる親たちにおすすめてある。

高濱の本棚

かすいた？」等々と話しかけつづけ、すべての世話をそれはそれは献身的に行う奥様だったのですが、ホテルに向かうバスのなかで家族各々の自己紹介をしたときに、こうおっしゃったのです。

「9年前に倒れたときはショックだったし、それ以来、ずっと世話をし通しました。でも最近ではそれも生きがいになってきたんですよね。振り返れば、ひたすら仕事に打ち込み、お金に困らない生活をずっとさせてくれたし、女遊びも賭け事もしない。姉さん女房が気恥ずかしい頃もあったけれど、3人の子どもたちも無事育って自立し、私は、この人と結婚できて人生本当に幸せでした」と。

70歳を過ぎて、こう言い切れる夫婦が何組いるでしょう。背も曲がり顔や手に皺も目立つのですが、魂が信頼の絆で強く結ばれているお二人を見ていて、歳を取ってこうあれたらいいなと、憧れる気持ちになりました。

まるで自分は若い側に立っているかのようには書いていますが、つい先日こんなことがありました。部屋の大掃除をしていたら、20代後半で高校生を教えていたときの教科書が出てきました。山口の神父さんが作られた有名な教科書です。懐かしくページをめくって驚いたのは、とても読めない、米粒に描く絵のような細かい文字でいくつものメモがしてあったことです。いまは虫眼鏡でないと読めないほどで、ああこれが

若さということなんだなと痛感しました。そして、亡くなった父が生前に「気持ち若い頃のままだけれど、最近鏡を見て『このおじいさんは誰だ?』と感じることがある」と言っていたことを思い出しました。20代30代などは、自分はいつまでも元気でいられるような錯覚があり、はるかかなたに見えた老境ですが、私はつま先くらいは踏み入れているようです。

残された時間を、一日一日感謝しながら全力で生きていきたいと改めて誓う年末になりました。

この一年間、ありがとうございました。みなさまにとって平和で心穏やかな新年となりますように。

花まる学習会 高濱正伸

花まるだより 2024年12月号

(令和6年12月5日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
発行人 高濱正伸
企画・編集 久慈 菜津紀・生井 ちま
編集 金井彩・清田 奈甫
坂田翔・高橋 奈穂・平山 真康
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社

新しい一年のはじまり！
家族で新春なぞペーに挑戦しよう

新春
なぞペー
2025

?

お年玉
プレゼントも
あるよ！

2025年より、新年のご挨拶は Comiru「お知らせ」でお送りします。

高濱が、花まるの教室長をちょっとおちゃめに紹介するこのコーナー！「タカタコ」は、高濱による他己紹介で教室長を深掘りします。2024年度のテーマは、「私の母」。各教室長が実際に自分のお母さんや家族に改めてインタビューした内容を、高濱がまとめました。



手話歌も披露!



会場が一体に!



ShipKids x KARINBA

秋の

イベントレポート



まいにち花まるも見てねー!

ダンタッキーも出演!

Shining Hearts' Party

花まる親子サマライ同戦



年中・年長戦! 「勝つぞ!」と気合い十分

負けないよ!



大人の本気



「いくぞー!」心をひとつに いざ合戦へ



「ふっしやあ!」子ども大將として、チームを引っ張ります

花まる親子探偵団

同じ色の仲間を見つけて写真を撮ろう!



お父さんの本気はカッコイイ!



親子で力を合わせて!



私の母は北海道で戦後間もない頃に6人きょうだいの4番目として育ちました。祖母が利他に生きる人で全員を分け隔てなくかわいがってくれたそうで、「おさがりの服」はいっぱいでしたが、夏に不自由なくおふだい仲良く暮らしました。老後の祖母は母が引き取ったのですが、祖母は確かに嬉しいなかに温かく、私も「おばあちゃん子」として育ちました。 | 佐藤唯昭/こじら

関東出発

雪国スクール

野外体験

春休みも花まるの



中京・関西出発

外遊び王国



現6年生限定/

広島県福山駅集合

無人島～卒業記念～

春休み企画は…

1月上旬、募集スタート!

“Comiru お知らせ”でお送りします

※一斉メールのご案内はございません

母は佐渡島育ち。妹と弟がいる長女でした。きょうだい生まれたときは嬉しかったのですが、母(私の祖母)をとられた気持ちで寂しかったのも覚えてます。近所におばあちゃん(私の曾祖母)が住んでいたで、よく遊びに行っていました。インタビュー中も何度も「ばあちゃんは嬉しかった」「OOしてくれだ」と出てくるなど、おばあちゃん子であることがわかりました。【青山裕介・ホビー

「ナイスチャレンジ！」という言葉に
頑張ろうと思えたんだ



キミの「できるようになりたい」が
「できる」に変わったとき。
ともに手を取り喜び合おう。

雪国 スクール 花まるスキー

仲間と楽しく！



スキークラス

スキークラスチェックシート



はじめて スキークラス

スキー初挑戦！まさに七転び八起き、「滑れた！」の喜びを味わおう！

ベーシック スキークラス

基礎固め！板を履く・滑る・止まる・起き上がる。リフトに乗ってコースを滑ることが目標だ！

ステップアップ スキークラス

さらにレベルアップ！スイスイ滑れる楽しさと、「こんなふうに滑ってみたい！」を叶えよう！

エキスパート スキークラス

仲間と磨く！パラレルターン・体重移動など「もっともっと」と、学びを楽しもう！

雪国 スクール

雪遊び

遊び方は無限大!



そり

タイヤチューブ



「雪玉」は見たことがあるけれど、「あたり一面の雪」を見たのは、はじめてでした」

心躍る雪の世界へ、ようこそ!



ヒップスライダー



雪を集めると何ができるかな?



ごろんっ。

雪の上ってひんやりきもちいい〜



みんなといっしょに、こ〜んなに大きなものが作れちゃった!



雪の穴からこんにちは♪



雪の椅子ができたよ!



ミニかまぐらの完成!

雪像・雪玉づくり



雪合戦



大きな雪玉を作るぞ〜!

雪国スクール 作文のご紹介

ほくのターン

二年生 かんたくん

ほくの大きいスキーのね ターンがすこくたのしくて ゆきがほかほかするばしよで ターンをするのがたのしくて すべつるつるするばしよは したにどんといつちやって ターンをするのがむずかしい だけとスキーは大きいです ぶんぶんすべつていつちやうよ ターンをするのはできるも てきないときもありますよ てきないときとできるとき なにかがつかわりません なのてちがいをつかんでね いつかじょうずにすべりたい

花まるスキー王国

雪国 スクールの スタイル

ニット帽



防水の手袋



ゴーグル

ネックウォーマー



レンタルできるもの

- ・ウェア上下
- ・スキー板 / スキーブーツ
- ・ヘルメット
- ※ステップアップ・エキスパートクラスの方には、ヘルメットの着用を推奨します(持参可)



スキー板

スノーブーツ

※スクール当日、全員履いてきます。

※雪道のコースは、スノーブーツを履いて遊びます。

スキーブーツ

母は浜松育ち。3人きょうだいの真ん中。「上と下はよく怒られていたけれど、私だけは過保護どころか溺愛だった」とのこと。これはのちにイカつい不良になってバイク事故を起こしたりした伯父や叔母も証言しています。高校生になっても、バス停を降りたら父母(私の祖父母)のどちらかが迎えに来るまでバス停前で待っていたほどの箱入り娘でした。 | 鈴木和明・シンドロ



こんげつ 今月のレインボータイム

すけい 【図形あやとり】

すけい ちょうてん ぶぶん ちよくせん
図形の頂点(●の部分)を、直線でできるだけつなげていきます。

せん せん かせ すけい
線と線は重なってもいいですが、図形にピッタリ沿う線や、

すけい かせ せん
図形と重なる線はひけません。

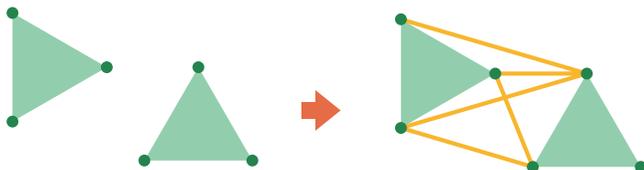
せん ぶ なんほん ちよくせん
全部で何本の直線がひけるでしょうか。

さかたしやう はな がくしゅうかい
出題：坂田翔 (花まる学習会)
(ヒカン)



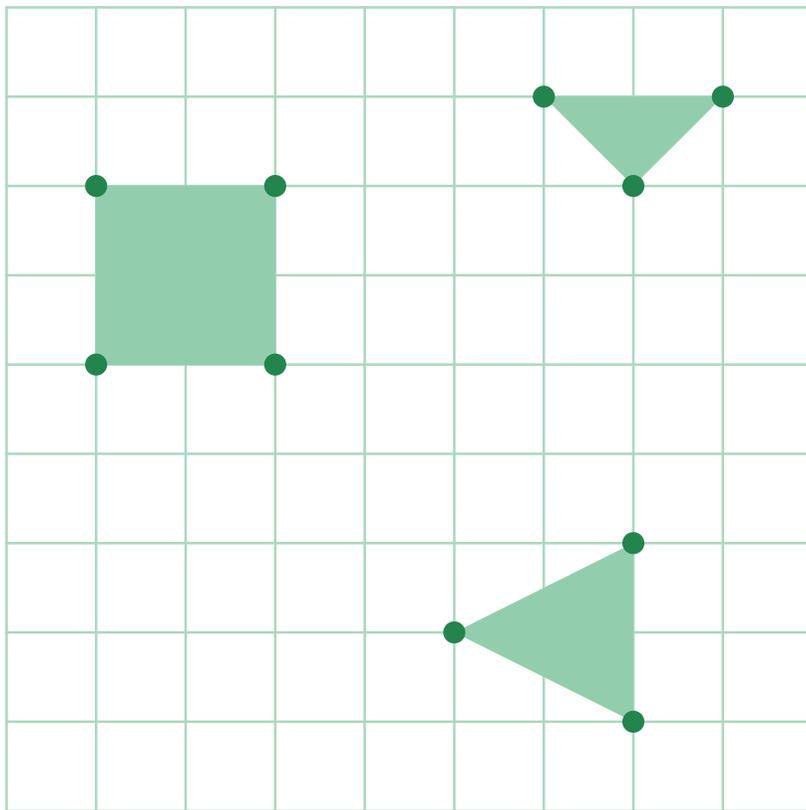
かいとう
解答はこちら！

れい



このようにつなげられます。
よって答えは、5本です。

レベル70



A. 本

無人島



「花まる子ども冒険島」開拓のため、カトパンに続いて広島に引っ越した職人。みなと港がある安芸津町に新たな拠点もでき、ますます力が入ります。そんな2人の日々を、現地からレポートします。

発明王現る

必要は発明の母、とはよく言ったもの。必要のあるところ、発明が生まれる。無人島でもそういうことがよくある。何しろ、電気もガスも水道もない場所だ。さまざまな場面で不便に出くわす。しかし、それが発明の種になる。「ないではなく、あるを見るべし」というものの考え方は、島で豊かに過ごすための大切な旋の二つだ。

例えば、島に来て箸を忘れたとする。ふだんの生活なら代わりになる箸やスプーンやフォークがいくらでも手に入るだろう。しかし、島ではそうはいかない。台所の茶だんすにコンビニでもらった箸がまだたくさん残ってるよ、なんてことはないのだ。とはいえ、手づかみで食事をするほどワイルドにはなれそうにない。そんなときは、その辺りの竹をバキッと割ってナイフでシャーッと整えると箸ができる。それどころか、その箸がマシムマロを焼くための串にもなるし、牡蠣を開くためのオーブナーにもなるし、使い終わったら火にくべて燃料にもなる。箸より便利な棒、HB B Bの誕生である。名前はいまつけた。

ほかに貝殻のスプーン(KGS)や竹の火吹き棒(THB)、ヘッドライトとベトボトルを組み合わせたランタン(以下略)など、島で生まれた発明品はいろいろある。その多くは無人島の環境、言

わば不便な材料にして子どもたちが柔軟な発想で作り出したものだ。どれも実際に役に立つ道具ばかり。しかし、たまに例外がある。斜め上をいく想像力によって周囲を驚かせた衝撃的な発明を一つ紹介しよう。

ある秋のコースでのこと。曇りがちで肌寒い日が続いていた。気温が低いと、寒さ以外にも困ったことが起る。濡れたものが一晩たっても乾かないのだ。うっかり生乾きの服を着てしまったことのある人にはわかると思うが、濡れた衣類というものはとても冷たく、気持ちが悪い。そんな状況で迎えたある朝の散歩。礎を歩くために、足元だけ海セット(濡れてもいい靴と靴下)に着替えて集合することになった。

前日から濡れたままの靴下に足を入れたのだから、各テントから悲鳴が響いてくる。そんななか、一人の女の子がすばらしい対策を思いついた。まず乾いた靴下を履く。その上にビニール袋を履き、濡れた靴を履くのである。これで足元をドライに保ちつつ、水場を歩き回ることができる。そのアイデアを称え、みんなで拍手を送っていると、それを隣で見ていた男の子がテントに戻って行った。しばらくして戻ってくる

と、完全に乾いた普段履きの上からビニール袋を履いていたのである。確かに濡れない。しかし、どう考えても岩場でビニールがすぐに破れてしまう。惜しいアイデアだ

なく、などあたりが和やかな笑いに包まれていたその横で、それを見ていた別の男の子がテントへ戻って行った。しばらくすると、その子が満面の笑みを浮かべながら走って帰ってきた。足元にすべい違和感。よく見ると、素足にビニール袋を履いている。その瞬間、あたりが爆笑の渦に包まれた。しかし、本人はいたって真剣。画期的な発明を訴える博士のようだった。愛すべき高学年男子の、愛すべき発明。カトパンの特別シールがその場で授与されたのは、言うまでもない。

戻って行った。しばらくして戻ってくる何やら足元の様子が変わっている。なんと、完全に乾いた普段履きの上からビニール袋を履いていたのである。確かに濡れない。しかし、どう考えても岩場でビニールがすぐに破れてしまう。惜しいアイデアだ

(おわり)

花まる学習会 橋本 一馬



見よ、この大発明。おれたちにできないことを、平然とやっけてのけるッ!

無人島企画や最近の様子を配信中! ぜひ登録してね!



花まる子ども冒険島公式LINE

カトパン 加藤 崇彰

花まる学習会 無人島プロジェクト責任者。学生時代から、花まるの野外体験に深くかかわってきた。現在は広島県へ移り住み、オンライン教室の教室長を務めながら、開拓団の受け入れや無人島開拓の準備を進めている。



職人 橋本 一馬

花まる学習会神奈川東北ブロック教室長。前職が家具職人だった経歴から「職人」のミドルネームを持つ。家具製作技能士、狩猟免許、プッシュクラフトアドバイザーなど、ちよっと変わった資格や経歴を活かし、「メンが食える大人」に独自の視点でアプローチを行うことが好き。広島で2年間無人島開拓に携ったのち、現在は神奈川でキャンプ教室を企画中。



これまでの開拓記はこちら!



せりちゃん (静岡県)



弟と遊んでいる最中、伸びる布（元々は弟が生まれたとき、病院で帽子代わりに被っていた大きめの筒状の布）がほつれ出したのを発見！ ほつれている部分を持って下にぶら下がった布を重しにビヨンビヨンとひっぱりどンドン糸状にして、最初はおもしろがっていました。次第に伸ばしたほうを持って部屋のなかをぐるぐる走り回り、引っかかった糸を見て「蜘蛛の巣をつくる！」と部屋中の引っかかるところを見つけ、糸をかけていきました。すると今度は跨いだり、伸びたりして下がった糸を上上げたいと、さらに糸を裂いて引っかかる部分を増やしたり、足りない部分は新聞を丸めてつなげたり、試行錯誤しながら蜘蛛の巣を完成させました。制作スイッチが入ると黙々と集中する彼女。できあがったときは満面の笑みでした。布が一本の糸からできていた発見にもつながった、大作ができあがった日になりました。



Rinせんせいのリんごの木
あなたのじゆうを表現しよう

「あなたはどうしたい？」
自分のころに向き合った
子どもたちの作品展です。

Rinせんせいより

せりちゃんの興味が、伸びる一本の糸からどンドン広がっていき、部屋中に“蜘蛛の巣”を作り上げていく過程が目に見えそうです。ほつれている糸を、どンドン引っ張って伸ばして行って走りまわるせりちゃんの、遊びのなかにある学びを見守ってあげることによって、大作が生まれたのでしょう。完成したときの満面の笑みは、表現しきった達成感ですね。「私はいつも、自分がわからないものを描こうとする」というパブロ・ピカソの言葉を思い出しました。未知への興味と挑戦が、創作には不可欠であることを表していますが、せりちゃんの好奇心も、既存の枠を壊し、新しい表現を生み出すきっかけとなったように感じます。



段ボールのなかにおうちをつくりました。1番のお気に入りはハンガーのようです。ハンガー、ハンガーラック、洋服をつくるのが難しかったのでは？ と母の私は思ったのですが、本人はハンガーの上の部分の棒に引っかけるために曲げたことがポイントで、特に難しくなかったと言っていました。祖母が洋裁好きで、ミシンや型紙を目にする機会が多く、自分で紙に服のデザイン画を描くことも多くなってきました。今回は立体的なものをつくったのでびっくりしました。

Rinせんせいより

あかりちゃんの豊かな想像の世界が、立体作品に表現されていてとても素敵。一つひとつのハンガーも精巧に作られていることに驚かされます。見事なのは、ワイヤーをうまくつないでいることもそうですが、それらが倒れないように粘土をうまく使って立たせている工夫と、熱を持って伝わってくる集中力です。

段ボールのなかにつくられたおうちは、ピアノや椅子、テーブルも並べられていて、居心地がよさそうです。洋裁が好きなおばあさまとのつながりも感じられる作品ですね。



あかりちゃん (兵庫県)

今月のARTレシビ

『ストローで描く！ リーススタンプ🎄』

今回は、クリスマスやお正月にぴったりの簡単ペインティングの方法をご紹介します。ストローに細工を加えることで、絵の具をスタンプのようにして使い、ぼんぼんと叩くだけで、モミの枝のリースやしめ縄飾りのようなデザインを簡単につくって遊ぶことができます。

絵の具は、水を使わずに牛乳パックの裏などに直接出して使えば、汚れやあと片付けが気になる方も手軽に楽しめるはず。

この動画を見て、ストローの代わりにプチプチ（梱包材）を使ってもできたよ！ と教えてくれた子もいましたよ。みんなも思いついたアイデアを楽しんで創作してみてくださいね！

おうちdeクリスマスART 絵の具リース [Rinせんせいがつってみたよ] <https://youtu.be/GR2Op49d4JU>

つくり方を動画で見よう

じゅんびするもの

・絵の具 ・ストロー ・ハサミ ・紙 牛乳パック

みんなのおうちART作品を待っています！

- ・レシビ部門
- ・じゆう部門

Rinせんせいにおくってみよう！

Rinせんせいがつくってみたよ！

こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

63

はじめての「いし！」 —観察の目を養う

暑い夏の盛り初めて会ったとき、彼は担当の先生の膝の上にはいました。その日は4歳児さんが5歳児さんと一緒にはじめての絵の具で作品制作をする日でした。

2回目に会えたのは、秋の気配が顔をのぞかせた晴れた日。彼は教室のうしろでびよんぴよんと飛びはね、ときどききゃっきやと楽しそうな声を響かせました。

その日は、子どもたちが海辺で拾ってきたたたくさんの石たち（そのなかにはフジツボや貝殻がくっついていたりするものも！）を観察することからはじめました。

私は川からまるい石や、地層模様が見える不思議な柄の石も見つけてきました。担任の先生が自宅の裏山から見つけてきてくれた石もあります。

海・川の石と、山の石は、見た目にもぜんぜん違います。けれども子どもたちは、まだその違いに気づきません。

二つを並べてみせるとようやく「尖って

る！」と山の石を指さします。「本当だ！川の石は丸いのに！ どうして尖っているんだろう？」私は共感し、問いかけます。

「音がなる！」と気づく子どもいます。地面に置いて石同士をぶつからせると「地面がゆれる！」耳元で音のちがいが聴き比べます。さらに「海のおいがする！」フジツボを石からはがした子がつぶやきます。みんなで石のおいも嗅いでみます。石をぶつける、小さなカケラになり、そのカケラで石に描くこともできることを発見します。「知の共有」が自然と生まれていきます。

いろいろな石を手にして、自分にじっくりくる質感を選び、重さを感じ、色や形、そしてにおいや音……まさに五感すべてを使って堪能しながら、石との出会いを体験する。そうやって子どもたちは素材の特徴をつかんでいきます。

子どもたちが何か新しい素材に出会うとき、よく見て、触って、感じることを通して「観察」し、自ら何かを発見していくことを、私は「素材と友達になる」と表現します。

このとき大切なのは、子どもたちが自分で発見したことに、同じ目線で驚き、「なぜ？」と問いかけながら一緒に心を動かす大人の存在です。

何かを教えよう、とせず、させよう、とするのではなく、子どもたちのなかから生

まれてくる発見や感動の声に共感しつづける。子どもたちの好奇心の芽を、ありのままのあなたの感性を、認める。

そのことは、彼らのなかに、「自分が感じたことは、大切な意見として聴いてもらえる」という体験として残ります。

「観察する」ことができるようになると、何かに出会ったときには、「違いを発見」し、「物事を多面的に見ることのできる」人になります。

そもそも、「気づかない」人は何かを深めていくことはできません。気づき、それはなぜ？と考へ、仮説を立て、調べたり、実験を試してみたり、想像したりすることは主体的な思考のはじまり。

多角的なものを見方を身につける土台にあるのが、観察の目を養うことなのです。

その日の振り返りの時間、ある保育士の先生が興奮して教えてくれました。「はじめて聞いたんです。あの子が、はじめて単語を喋ったんです！ 『いし！』って言いました！」と。

仲間が同じ空間で体験していたすべてのことを、彼は参加はしなくても、聞いていないようでも、彼なりの「石との出会い」を果たしていたのだ、と私は思いました。

Rin (井岡由実)

Atelier for KIDs



全国から
参加可能!

おうちアトリエコース

素材セットとおたよりがご自宅に届き、「Rinせんせいがつくってみたよ動画」を見て、お好きなタイミングで制作をします。

Zoom (授業日の午後) またはLINE公式アカウントのやりとりにて、鑑賞会も行います。

詳しくはHPをご覧ください。

参加費：1名2,500円 (送料・税込)

申込締切：12/25 (水) 19:00

Rin (井岡由実)

花まる学習会取締役、「ARTのとびら」主宰。児童精神科医の稲垣孝氏とともに、心を病んだ青年たちへの専門的な対応に専心。花まる学習会年中・年長向け教材開発に携わり、冊子「1年生になる前に」では、幼児期に伸ばしたい能力や感性の教育について論じる。著書に『こころと頭を同時に伸ばす AI時代の子育て』(実務教育出版) ほか。

RinせんせいのSNSなど
すべてのリンクは
こちらから▶



1/19 (日) 10:30 ~ 12:00 カレンダーアート

【対面クラス】

対象 年長~中学生
定員 25名 (予定) (お茶の水花まるラウンジにて)
参加費 1名3,500円 (税込)
申込締切 12/25 (水) 19:00

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>

勝谷里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小4・小2・2歳児の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくご伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんずう初級』（学研プラス）ほか



本能のままに書く作文

11月に、「作文コンテスト」がありました。今年もきつと素敵な作品がたくさん生まれたのではないのでしょうか？ 3学期にお渡しする文集を、どうぞ楽しみにお待ちください。

さて、わが家の小学2年生、長男の作文事情。1年生のとき、花まるの授業で自由奔放な作文を書いていて、「こういうタイプか！」と笑い半分おのき半分の気持ちを抱いたのを思い出します。こんな感じでした。

「ふしぎ」

こめのいね ーぼんにー〇〇つぶ ーふしぎ。

「たのしいな」

たのしいな あーあー こわくない。

それから1年。これは学校で書いた作文なのですが、こんな感じでした。

「キャッチボール」

キャッチボールをパパとしました。すぐたのしかったです。りんごあめも食べて帰りました。

少し、「定型」にはまった作文を書くようになってきました。この変化の要因は？ 幼児性が少し抜けたこともあるでしょう。また、いわゆる「文章を指導される」経験を積んだことが一因かもしれない、と思っています。

2年生になり、学校で文章を書く宿題が出るようになりました。そこでの指導内容が、

・いつ、どこで、だれが、何をしたら、を書きましよう

・五感に注目して、書きましよう

それ自体は本当にその通りで、五感に注目すると、その子の物事の「観察」の解像度があるのと、とても大切です。ただ、わが家の長男の場合は、「それだけ書けばよい」と解釈し、そのルールに引っ張ら

れて、結果、1年生のときのような「自由奔放さ」「爆発力」はなくなってしまうように感じます。

花まる学習会の作文は「呼吸をするように書く」を目標にしているのですが、実は人生のなかで意識せず思っがままに筆を動かせる時間って案外短いのかなあ、と長男を見ていて感じました。文字を覚えて自分が書きたいことを書けるようになってから、成長してまわりを意識するようになり、ある種「型」へと寄せていくようになるまでの、その間。

もちろん、年齢を重ねても、「呼吸をするように書く」ことは可能なのですが、やはり、成長に応じて少しずつ理知的な視点も入ってくるでしょう。無邪気に、ただただ想像力を爆発させられる時期、10歳ぐらいまでいかに「自由に書く経験を積むか」、花まるの作文の時間の貴重さを改めて感じた出来事でした。

さて、なかなか長男の「爆発力のある作文」が見られなくなり、ちょっと寂しい思いもしていたのですが、久しぶりに「やってくれた！」と思う作文に出会いました。

花まるオンラインでの「夏期特別授業」。「五感を使おう」という作文指導を少しだけぞいてみたら、「夏休みの話がなく、運動会の練習がなく」と題材に悩んでいたの、（おっ、どんな作品ができるかな？）と楽しみにしていたのですが、授業後に読んだ作品がこちら。

「かんそうぶん」

ちゅうちゅうどおりのお話です。

ある日きんきゅうの手がみごといて三ビキのガードマンがきて

ちゅうちゅうどおりのお話です。ちゅうちゅうどおりのお話です。

ちゅうちゅうどおりのお話です。ちゅうちゅうどおりのお話です。

こんやわパーティーになったお話です。（原文ママ）
「五感はどこにいった！」と突っ込みどころ満載でした。なぜか、「ちゅうちゅう通りのゆかいなななまたち」という実際にある絵本についての感想になっています。

（なぜ、こうなった）と思いをめぐらせます。（子どもの突拍子のない言動の裏を予想する親は、探偵ばりの洞察力が求められますよね……）そして、答えを見つめました。夏期授業のテキスト、「映像化」のところに「僕はごろごろ」という詩が掲載されているのですが、その、「ちゅうちゅう鼠ははつこりこ」という一説に引っ張られたようです。ちゅうちゅうネスミつながり……！

久しぶりに、長男の「書きたいという気持ちありき」で、本能のままに筆を動かしてできた作品を読んだ気がしました。五感を使って書かなくていいというのも、きつと頭のどこかにあつたのでしょうか、「ネスミのことを書きたい」という欲求には抗えなかったのかな。それもこの時期にし書けない作文。貴重な一枚になりました。

花まる学習会 勝谷里美



『花まる学習会「書けない」から卒業する作文の授業』

坂田翔 著
高濱正伸 監修
(実務教育出版)

大人も子どもも作文の思いこみ、全部捨てましょう！ 花まるの教室で子どもたちが書いた実際の作文を題材に、「書くこと」の本質を語った一冊。私もお守りのように手元に置いて、親子で少しずつ取り組むのが楽しみです。

母は町田のヤンキーでした。細々口出してくる母親（私の祖母）の過干渉と中1で父親を亡くしたことが、グレート原因だとのこと。いまの夫とは同じグループでしたが、各々別の人と結婚して子どもをもうけました（私と兄）。その後離婚して昔のメンバーツイ子同士で再婚。子どもには自由に生きてほしいと考えたそうで、実際怒られた記憶がありません。「自由でやっていいが警察沙汰と保証人のハンコだけは勘弁してくれ」が口癖でした。[土方日向・ソノイ]

Syunper

小林 駿平
Kobayashiみっつでひとつでしょー 想像力は
家庭でもー

自転車通勤の私。帰り道、家が近くなると、自然とわが家の部屋の明かりがついているかを確認します。大体、真つ暗な日が多いのですが、ときたま明かりがついていることも……。お！もしかしら娘が起きているかも、なんて淡い期待を抱いて寢室をのぞくと、スースーと小さな寝息が。まあ、そうだよな、と腕時計に表示された時間を見つろぎ、妻が用意してくれたごはんをあたたためなおしていたく日々が続きます。

そんな生活に、最近ちょっとした変化が。鍵を開ける音がガチャガチャとしないように、足音を立てないように、細心の注意を払ってリビングを指します。階段を上がるところまではいままで通りなのですが（それでも3日に1回は「もつと静かに!!」と助言をいただきます……）、階段を中段くらいまで上がると洗濯物の甘い香りが漂ってくるようになりました。洗濯物を干すのは私の仕事だったはず……。大量にあったはずだが、やってくれたのか？ そんなことを思いながらリビング

グのドアを開けます。音を立てずにそつと力パンを置き、ごはんを温めなおそうとまたそつと電子レンジを開けようとしたそのとき。ガラ……ガラ……とゆつくり寢室のドアが開きます。妻です。「おかえり、遅かったね、ごはんあたためるよ」普段は娘と同じタイミングで寝ることの多い妻ですが、疲れもあるなか、わざわざむくつと起き、臉を擦りながらフライパンの野菜炒めと鍋のなかの味噌汁をあたたためなおしています。「今日は○○（娘）はどんな感じだった？」「今日も元気にニコニコ過ごしていたよ。あ、私にはなんかあでもない、こつでもない文句も言っていたけどね〜」なんて言いながら、一言二言、言葉を交わし、ほどなくして「……じゃあ疲れたから寝るね。寝るとき、電気消しておいてね。おやすみ〜」とまた寢室に向かいます。

洗濯物干しに、ごはんのあたため。一体何があったのだろう。これらは私の仕事だったはず。そういえば、もつとちょっとした変化がありました。妙に娘が私のことを好きになってきたと思うのです。「お父さん、大好き!」「お父さん、遊びたい!」「お父さん、明日は何時に帰る?」「朝は一緒に保育園行ける?」最近に常にこんな調子です。8月に3歳を迎えた娘。ここにきて急に「お父さん大好きモード」に突入しました。それまでの娘といえば、着替え、髪の毛結び、トイレ、ごはんを食べるときのポジション、保育園の送迎、とにかくすべてにおいて「ママとじゃないといやだ」の一点張りでした。それがどうでしょう、徐々にではありますが、「お父さんとがいい!」「……いやそれは言い過ぎか、お父さんでもいい」が増えてきたのです。

これは何かあるな……。うす暗いリビングであたたかい野菜炒めと味噌汁をいただきますから、考

え込む私でした。

その翌日から出張のため4日ほど家を空けることになっていました。ちょうど私が帰宅する日から、今度は妻が娘を連れて2泊3日の出張が入っていたため、1週間家族に会わない期間が続くことになりました。夏になると毎年サマースクールなどもあるため、このくらいの期間家を空けることはいわゆるありません。今回も同じようなものだと特に深く考えてもいませんでしたが、事件が起きたのは私が家を離れて2日目の夜です。21時くらいでしょうか、出張先のホテルで一息ついていると妻からビデオ電話が。そこには泣きじゃくる娘の顔が映し出されていました。そして開口一番「こつ言ったのです。」

「もく!! おとうさん!! どこにいるの! みっつでひとつでいつたでしょー! いなときとはごめんさいでしょ。いるときはありがとうでしょ! ね!? わかった?」

突然のことであまり真意がつかめなかったのですが、さすが妻が翻訳をしてくれました。「○○（娘）が3人で1つでしょつて。家族は離れちゃいけないでしょつて。さつきからずつこの調子だよ。最近、ずつと、お父さんはいいお父さんだよねキャンペーン」実施中だったから余計に怒っているのかもね」

すべての謎が解けた気持ちになりました。最近の妻の行動にはすべて意味があったのです。仕事から帰り、一通りの家事を終え、疲れている体にもちうって洗濯物を干してくれるのも、ごはんを作つてあたためなおしてくれるのも、娘が最近になつてお父さん大好きモードになったのも、すべては妻の「みっつでひとつ」を体現するための行動だったのだろうと思ひ至りました。誰か一人を

悪者にしない、きつと疲れているだろうからと他者に寄り添う。相手への想像力を膨らませた妻の想いと行動に頭が下がりました。

改めて振り返つてみると、さまざまに変化に気づいていながら疲れを言い訳になかなか行動に移せない自分、ありがとうと目を見て伝えられていない自分に気づきます。「いないときはごめんさい、いるときはありがとう」。娘の言葉が胸の奥深くに響きます。きつと妻に大事なことを教えてもらったのでしょつ。恥ずかしながら、この歳になつて私は妻と、そして3歳の娘に大事なことを教わりました。

「相手を想像して毎日を生きる」。よくよく考えるとそれは、普段教室の子どもたちや自身のチームの社員に何度も伝えている言葉でした。人は独りでは生きていけない、誰かが足りないところを知らず知らずのうちに補つてくれる。そこに思いを馳せて、自分にできることを見つけて……。そうしてチームの信頼はできあがっていくものであると。

自分の視野は外にしか向いていなかったのだと思ひ知りました。そんな想いをこのコラムでしか伝えられていないところが、私の課題ポイントだと痛感しています。痛感している場合ではないですね。今日そつと自宅に帰つたら、小さい声で「いつもありがとう」と伝えます。どちらかが、ではなくどちらがお互いのことに少し想像をめぐらせるだけで、きつと何かが変わつていくと信じて。

花まる学習会 小林駿平



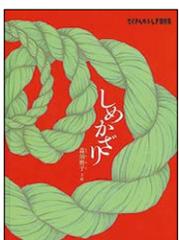
～さようなら2024年、
こんにちは2025年～



『ぐりとぐらのおきやくさま』

なかがわりえこ 作
やまわき ゆりこ 絵
(福音館書店)

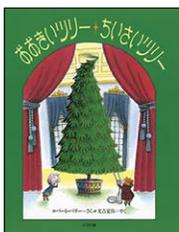
ぐりとぐらが森の中で雪合戦をしていると、大きな足跡を発見。たどっていくと自分たちの家まで続いていて、ドアを開けてみると、中には真っ赤なオーバーに赤い帽子、白いマフラーがあって……。2024年10月に亡くなった作者の中川李枝子さんは、子どものときに「戦争のない《ここではないどこか遠く》へ行きたい」という思いを強く持っていたとのこと。そんな視点で改めて「ぐりとぐらシリーズ」をひも解くと、中川さんの万感の思いを感じられるのではないのでしょうか。



『しめかざり (たくさんのふしぎ傑作集)』

森須磨子 文・絵
(福音館書店)

お正月になると街のいたるところで見られるしめかざり。全国の多彩なしめかざりを紹介するとともに、そこに秘められた古の人たちの思いや願いをひも解く魅力的なノンフィクション。山形県鶴岡市の「俵型」しめかざりや、安芸の宮島の華やかなしめかざりなど、見ているだけで楽しめます。2025年に40周年を迎える月刊シリーズ「たくさんのふしぎ」から、お正月に相応しい一冊。



『おおきいつリー ちいさいツリー』

ロバート・バリー 作
光吉夏弥 訳
(大日本図書)

ウィロビーさんの屋敷に運ばれてきた大きなクリスマスツリー。先っぽが少し天井につかえたので切り落とし、それを小間使いがもらい受けると……。一本のツリーがたくさんの人や動物たちに受けつがれていくプロセスを描いた素敵な物語。結末も実に心憎い。アメリカでの初版は1963年という、実はかなりのロングセラーです。



『クリスマス』

バーバラ・クーニー 作
安藤紀子 訳
(ロクリン社)

そもそもクリスマスってどんな日？ サンタコースとは何者？ 贈りものやツリー、七面鳥を食べることの意味は……？ クリスマスの起源や習慣にまつわるさまざまを、明快な言葉と美しい挿絵で紹介した一冊。コールデコット賞作家による繊細なイラストが魅力的で、家があれば厳かな雰囲気のあるクリスマスを演出できます。



『江戸のジャーナリスト 葛飾北斎』

千野境子 著
(国土社)

代表作『富獄三十六景』がパスポートに、ビッグ・ウェーブこと『神奈川沖浪裏』が新千円札に描かれ、2025年大河ドラマにも登場するなど、いま話題の浮世絵師・葛飾北斎。新聞の論説委員も務める著者が、「ジャーナリスト」という観点から知られざる北斎の実像に迫ったノンフィクション。読み終えたら「すみだ北斎美術館」や、長野県の小布施町にある「北斎館」にもぜひ足を運んでみては。



1月 (第9回) 「本×MANGA ~開催! 旅する読書『大MANGA祭り』~」

この冬、想像の翼を広げて目では見えなくても大切な、この世界の普遍的なことを考えてみませんか？ 古今東西のファンタジーの名作や、それらと関連する多様なアート作品、世界のクリスマスや冬の情景も多数紹介。音楽教育のプロフェッショナルとの共演お届けする。この時期を彩るさまざまな音楽も必聴！ 心温まる時間を期待ください。

1/16 (木)・1/18 (土) 10:30～12:00
参加費 一家族 500円 (税込)
申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolf.jp/extension/j-hiranuma/2024/>





おひまこ かのこ
岡本 祐樹
(カモン)

花まる クラブ

遊ぶように学んだことで

中学3年生のMくんからメールが届きました。

「Mです。お久しぶりです！ 第一志望に合格しました！ 春から慶應義塾志木高等学校に通います。自由な学校なのでいまから楽しみです。カモンへ報告したかったので、メールしました。」

Mくんとは、小学1〜4年生まであざみ野アルゴクラブにて一緒に過ごしました。

入会当初はまだまだ思考の精度が高いとは言えないものの、授業をとっても楽しみ、とにかく笑顔で問題に挑む姿が印象に残っています。楽しんでるからこそ、試行錯誤のスピードもあり、一つの問題をいくつかの視点から考えられ、うまくいくかわからないけれど挑戦してみる！という前向きな姿勢で取り組んでいました。

2年生のときには、問題の解き方を発

表する際に誰も見つけられなかった視点を言うことができる、ほかの子のお手本になるほどの実力をつけていきました。3年生ではアルゴクラブ全国大会（日本全国の加盟塾代表選手による大会）に出場する代表になったり、6年生の最後の大会でチーム戦優勝の最後の1ピースになったり……。いろいろな逸話を残していきました。

Mくんの力が大きく花開いたのは、アルゴクラブ5・6年生コースに通いはじめてからでしょう。当時お茶の水でしか開講していなかったアルゴクラブ5・6年生コースに通うために、Mくんはお茶の水教室へ移動しました。私もお茶の水エリアへの異動があり、年に何回か顔を合わせていました。

お茶の水でのMくんは「アルゴゲームでのアタックが待てない子」として話題に。アルゴゲームは、手札のカードを当てあうボードゲーム。Mくんは20秒の制限時間をじっくり使って考えアタック（カードを当てる）しよう、すぐにわかっててもアタックしないでね、というルールを設けても、うっかり5秒くらいでアタックしてしまつそう。お茶の水教室長のタッキー曰く「カモンのアルゴゲームのときと同じだよね」とのこと。時間を待たずガンガンアタックする私の姿を、子どもたちに見せていたのが移ってしまつたようです。そんな姿をほかの子からツッコまれつつも、それがMくんらしいね、と

気に入られているようでした。

そんな輝かしい活躍の裏で、Mくんは思い悩んでいました。「小学校がおもしろくない」。小学校は、わくわくする授業ではない、小学校がアルゴクラブみたいだったらいいのに。考えることを楽しみ、その思いをみんなと共有しながら、遊ぶように学びたい、というMくんらしさが発揮できない。

お母さまは卒業時にも、この合格報告のときにも、

「小学校はずつとつまらないと言っていて、アルゴクラブがあつたおかげで何とか乗り切つたようなものでした」とお話しされていました。

そんなMくんに、ぜひ高校受験の話の間かせてよ、とお願ひしました。

なぜ慶応志木に？ と聞くと、「あの……自然が、大きいんですよ」という熱のこもつた第一声。敷地が公園のごとく広くて、カプトムシもいるらしいのです。熱く語るMくんは、小学生の頃から好きだった卓球部と生物部を兼部するんだと意気込んでいました。

面接試験では、そんなことも聞かれたの？ という話ばかり。義務教育に追加・削除する教科、ピカソの絵はなぜ変化したのか、円周角の定理を知らない人に説明しなさい、30年後に住んでいたい家の間取り……。

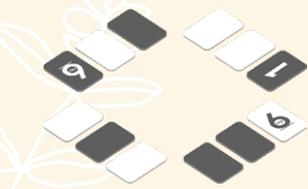
よくそんな質問に答えられたね、と言うと

「アルゴクラブの5・6年生コースって自分の意見をたくさん言うじゃないですか。あれで慣れたというか、土台になっているんだと思います」

自分の意見を伝え、人の意見を聞き、議論を深める。それが5・6年生コースの醍醐味ですが、こういう即応性をもつた力になるとは。それもこれも、Mくんが「楽しみつくしてきた」からこそでしょう。考える、人に伝える、それが楽しい。それが自分だけでなく、みんながそう思っている環境にいられたことが、Mくんの力をさらに伸ばすきっかけになっていました。

何か一つ掘りどころがある、ありがたいにその一つにアルゴクラブがなれていました。いま通う子どもたちにも将来「あのとき、花まる・アルゴに通っていてよかったな」と思ってもらえるように。そのためにいま、ただひたすらに楽しんでもらいたいと思います。

花まる学習会 岡本祐樹



数理教室
ALGOCLUB
2025年度生
体験申込受付中！



花まるの
教室長を
紹介します!

Hanamaru Family 花まるファミリー

…オンライン アルコ …アルコクラブ …みんなビレッジ …無人島 FC …スクールFC …アノネ音楽教室 Hasapo

みんなの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



うつみ たくや
内海 拓也

埼玉 神奈川県



かわなみ ともこ
川波 朋子

オンライン 東京都



こいけ まな
小池 麻菜

神奈川南 山梨県



しば けんた
柴 健太

東京南 東京都



つばた あつき
坪田 充生

茨城 東京都



にしやま ゆきの
西山 由乃

東京南 神奈川県



はやし たくろう
林 拓郎

東京西 長野県



ふるだて ちよみ
古舘 千代美

東京西 FC 埼玉県



みずの あおぞら
水野 青空

オンライン 神奈川県



やすはら りな
安原 里南

中京 愛知県



よしおか なおや
吉岡 直哉

神奈川北 東京南 埼玉県



たかはま まさのぶ
高濱 正伸

熊本県

…… リーダーネーム

…… 名前

…… 所属

…… 出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

12月の誕生花は **ポインセチア**



母は八千代市育ち。兄が入退院を繰り返した時期があって、とても寂しいのに耐え抜いて強くなりました。私や弟から見るといつもニコニコで抱きしめてくれる母でしたが、父に言わせると、酔って電車を乗り過ごしたとき、何駅先でも「歩いて帰ってきな」と言う鬼妻だったそうです。私が28歳のときに産で亡くなったのですが、闘病を知らされていなかった時期に「髪薄くなったんじゃない?」と口にしてしまい、母に悲しそうな表情をさせたことをいまも後悔しています。| 高橋大輔・タイプ